

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.12.19 vol.44

★\*.....\*★

本メールマガジンは、スターリィマンのお話の創作者  
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて  
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆

配信停止をご希望の方は、お手数ですが  
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

---

☆ご あ い さ つ☆

---

今年もあと10日余りとなってまいりました。  
皆様、お変わりございませんか？

12月上旬から、北海道、東北、日本海側では  
記録的な大雪となり、全国的に寒さが一段と厳しくなっています。  
病気や事故に遭いませぬよう、皆様ご自愛くださいね！

さて、私たちのクリスマスツアーも、  
本日を含めてあと2日となりました。

午前中は福島県本宮市第2保育所さんで  
スターリィマン紙芝居ライブ。  
午後はアイエスエフネットライフいわきさんで  
クリスマスイベントです。

福島県には、今年もたくさんお伺いさせていただき、  
色々な素晴らしい出会いがありました。

第15話「今を生きるスターリィマンの物語」は、  
こういった福島との有り難いご縁の中で出会った  
玄侑宗久氏をご紹介します。

最後までお読みいただけましたら嬉しいです。

---

☆第15話「今を生きるスターリィマンの物語」  
～福島原発避難の子どもたち、若者たちを支え続ける～  
たまきはる福島基金 理事長 玄侑宗久氏

第1章 ～玄侑宗久氏との出会い～

---

私が玄侑宗久氏と直接お会いしたのは、  
実は、この「今を生きるスターリイマンの物語」の  
メールマガジンのために、インタビューをさせていただいた  
先月2014年11月17日のことでした。

ずっと、このメールマガジンを読んでくださっている皆様は、  
えっ？と疑問に思われることでしょう。  
なぜなら、これまでご登壇いただいた14名のスターリイマンたちは、  
私が以前から親交させていただいていた方ばかりだったからです。

しかし、玄侑氏は、ずっとお会いしたいと願っていた  
スターリイマンのお一人でした。

玄侑宗久氏は、福島県三春町にある福聚寺のご住職で、  
また、2001年に芥川賞を受賞された作家としても有名ですが、  
私がお会いしたいと思ったきっかけは、  
福島の原発事故により避難している子ども達や若者たちを支援する  
「たまきはる福島基金」の理事長をなさっていることを知ったからです。

「たまきはる福島基金」 <http://www.osyf.or.jp/index.html>

「たまきはる福島基金」は、  
2011年3月12日以降の東京電力福島原子力発電所の事故により、  
地元市町村から避難を余儀なくされた全ての人々を精神的に、  
経済的に長期に亘り支援することにより、  
地元市町村の復興に携わる人材を育成し、  
被災市町村の速やかな復興と健全な発展に寄与することを目的として、  
「一般社団法人ふくしま原発避難子供・若者支援機構」として、  
2011年8月22日に設立された法人団体です。

主な事業内容として、

- ・放射能と健康に関する講座・講習会・セミナーの開催
- ・被災したすべての人の精神ケア。身体ケア
- ・避難した子供・若者等に対する奨学金等の助成  
などを支援されています。

団体の役員構成は、理事長の玄侑宗久氏の他に、  
理事に、双葉郡楢葉町長・富岡町長・川内村長・大熊町長・浪江町長  
葛尾村長・伊達郡川俣町長、そして草野光昭氏・平野廣二氏・渡辺卓治氏。  
監事に、相馬郡飯館村村長と、法人の主旨に賛同する  
原発避難関係市町村長の首長の方々が中心となっています。

2011年7月から行なっている「スターリイマン紙芝居プロジェクト」の活動の中で、  
同年の8月にご縁をいただいた、日本フォーム印刷工業連合会の山口専務に  
印刷媒体を通して、何か東北の方々の力になればらとご相談申し上げた所、  
福島市内の日進堂印刷所の佐久間代表取締役をご紹介いただきました。

そして、スターリィマンのチャリティカレンダーを制作いただけることになり、2012年版は、被災したペットを救護する「福島動物救護本部」に、2013年版は「たまきはる福島基金」にご寄付させていただきました。

2012年 <http://www.nisshindo.co.jp/new/new-kifu.html>

2013年 <http://www.nisshindo.co.jp/new/kifu130215.html>

このカレンダーのご縁で、「たまきはる福島基金」のことやその理事長が、玄侑宗久氏であることを初めて知ったのでした。

2012年の10月に、福島空港でイベントを行なった際に、「たまきはる福島基金」理事の管野氏と渡辺氏が御礼のご挨拶をと、わざわざ会場までお出でくださいました。

その時、いただいたパンフレットには、「たまきはる」は万葉時代の「いのち」の枕詞。これは我々自身がこの困難をしたたかに生き抜くための基金である。という玄侑氏の言葉が書かれてありました。

「たまきはる福島基金」と玄侑氏が命名し、その名に託した祈りを、私は深く感じました。

それから間もない、2012年11月上旬のこと。毎月愛読している月刊誌「致知」の12月号が届きました。封を開け、手に取ってみると、なんと『玄侑宗久氏と鈴木秀子氏の対談 大震災が気づかせてくれたこと ～無常の中の幸福を探る～』が載っているではありませんか。

実は、この号の「致知随想」のコーナーに、『心を紡ぐ贈りものを届けるスターリィマン』と題して、東北の子ども達に紙芝居を贈る活動について載せていただいたのです。

ご縁がつながる瞬間。時にそれは不思議で、誰にも予想出来ませんが、いつか出会うべき時に、最も素晴らしいタイミングで出会い、つながると、いつも私は信じています。

玄侑氏と同じ号に掲載していただいたことから、改めてそのことを実感しました。

2013年のカレンダー以降も、2014年、2015年とカレンダーの売上の一部をご寄付させていただいておりますが、理事の渡辺氏のお心遣いにより、避難地域の市町村や「たまきはる福島基金」の支援者の方々への御礼として毎年カレンダーをお贈りいただいております。

福島市にある「たまきはる基金」の事務所にお伺いすると、渡辺氏をはじめとする団体の皆様が、いつもニコニコと温かい笑顔で私たちのことを迎えてくださいます。

そして、福島のおいしいお菓子とお茶でおもてなしいただき、福島の現状を教えていただいたり、私たちの活動が広がるようにと、避難地域の各市町村の幼稚園、保育園、仮設住宅などをご紹介してくださったり、直接紙芝居をお贈りいただいたりと、色々と親身になって力になってくださっています。

別れ際にはいつも「大変だけど、一緒にがんばろうね」と優しく言葉をかけていただき、心も身体もホッ出来るひと時に、また、がんばろう！と、勇気と元気をいただいています。

有り難いご縁に心から感謝の気持ちでいっぱいです。私たちにとって、渡辺氏もまさにスターリィマン！です。

カレンダーをご縁に、今まで交流させていただいた月日は、私たちにとって、福島の子ども達や福島を愛する方々とのかけがえのない出会いにつながっています。

いつか、「あの時があったから今があるんだね」とみんなで笑い合えるように、これからも「たまきはる福島基金」の皆様と共に福島の子ども達を支えていけたらと願っています。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第15話の第2章は、12月29日(月)配信予定です！

---

玄侑宗久氏との出会いは、いかがでしたでしょうか？

「たまきはる福島基金」の理事長である玄侑氏との出会いは、これからも福島での活動を継続するための太い架け橋となりました。

福島の子ども達の夢をずっと応援し続けられるように、精一杯に頑張ったいと、また心に刻みました。

さて、今回は第15話「今を生きるスターリィマンの物語」の第2章として、玄侑宗久氏の家族の原風景をお送り致します。

配信は、12月29日(月)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

今年のメールマガジンも、次回29日の配信が最後となりました。  
お読みいただきました皆様、本当にどうもありがとうございます！

慌ただしくなりがちな年末ですが、  
残り少なくなった2014年の日々を大切にしていきたいですね。

それでは、来週は皆様にとって  
心温まる素敵なクリスマスになりますように…☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.12.29 vol.45

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

今年もあと3日となりました。  
関東は冷たい雨が降っておりますが、  
皆様、いかがお過ごしでしょうか？

さて、今年最後のメールマガジンは、  
玄侑宗久氏の第2章「家族の原風景」をお送り致します。  
最後までお楽しみいただければ嬉しいです。

---

☆第15話「今を生きるスターリイマンの物語」  
～福島原発避難の子どもたち、若者たちを支え続ける～  
たまきはる福島基金 理事長 玄侑宗久氏

第2章 ～玄侑宗久氏の家族の原風景～

---

---

Q1. ご家族のことを教えてください。

---

私の父の名前は、玄侑宗明（そうめい）です。  
大正14年10月1日に岩手県鱒沢村（現 遠野市）で生まれました。

母は橋本芳子と言います。  
昭和4年6月13日に福島県田村市に生まれました。

私は、昭和31年4月28日に、長男として  
福島県三春町で生まれました。  
兄弟は、3つ上の姉と2つ下の弟がいます。

現在は、妻と両親の4人家族です。

妻は、ファイバー・アーティストとしての  
独自の視点がとても刺激になる。  
また料理が手早く、上手です。

---

Q2. ご両親のことを教えてください。

---

私の父は、福聚寺住職34代目で、  
高校国語の先生をしていました。  
漢文・古典・現代国語を教えていましたが、  
短歌が専門だったようです。

私も若いころはわからなかったのですが、  
最近になって、父が若い頃に書いたものが出てきたりして、  
それを見ると、なかなか瑞々しいような和歌を書いていたなあと思います。

お坊さんとしての父は、檀家さんに開かれた  
お寺の基礎をつくった人ですね。

当時、お寺という所がどこでもそうだったんですけど、  
昔風のお寺から、少しずつ変わっていく時で。  
まあ、近代化みたいなことで、  
それが必ずしもよい変化とは思えない部分も  
今となるとありますけれども。

例えば、今みたいに葬儀屋さんの会場で  
お葬式をやるという前の段階で、  
自宅でお葬式をやるんですけれども、  
普通の家には祭壇がない。

しかし葬儀屋さんに借りると非常に高いので、  
お寺で祭壇を貸し出すシステムを作りました。

また、お寺の山門を造ったり、塀を造ったり、  
精進揚げができるお食事処を建てたりと、  
檀家の皆様に喜んでいただく寺として改善改良をしました。

父の尊敬する所は、シベリア抑留生活を3年過ごしたせいか、  
「不言実行」な所ですね。

母は、父の堅い部分を包むクッション材のような人です。  
私にとっても、いつも「静かにみている」クッション材のような人です。

私は今35代目ですが、禅寺ですので、  
血縁で続いているわけではありません。  
私の血縁では、祖父、父、私。その後は血縁ではなくなりますね。

家は寺なので、両親の存在も大きな存在ですけど、  
檀家さんがファミリーなんですね。

だから、夏になるとお寺で知らない人が昼寝しているし、  
下宿人の高校生もいたし、私は色んな人に可愛がっていただきました。

当時は、周りに子供も多かったし、  
テレビが入って、隣の家までテレビを観に行っていた。  
近所との垣根があまりなかったですね。

---

### Q3. どんな子供時代を過ごされましたか？

---

私は、わんぱくな子どもでした。  
幼稚園が家の裏山を登ってぬけるとあって、  
下を通るのが面倒くさいので、よく裏山を通って行っていたんです。

カトリックの幼稚園で、神父さんだけが男性で、  
あとの先生は女性の先生でした。

今はどうかわかりませんが、ママシなんかもいて、  
ある時、ママシとは知らないで、蛇だと思って捕まえて。  
幼稚園に遅刻して、みんながそろっているところに持って行って、  
それだけでも大変だったのに、ママシとわかって、  
担任の関谷先生に往復ビンタをされましたね。

(往復ビンタは) 幼稚園で初めてだったそうです。  
そのくらいわんぱくでした。

私は昭和31年生まれなので、  
まだ舗装もされていない道路が多い時代でした。

みんな一様に貧しかった。  
たまにそうじゃない恵まれて子がいましたけれど、  
みんな半ズボンとランニングで遊んでいるという。  
程よい貧しさが良かったと思います。

---

### Q3. 夢を持ったのはいつ頃でしたか？

---

夢を持つというよりも、坊さんになるのを  
どうやったら避けられるか。それがずっとありましたね。

小学校低学年の時は、頭を剃って学校に行くと、  
うけるなあなんて思ったりして、お経をあげたり学校でやっていましたけど。

中学生ぐらいになると、本当に坊さんにならなくちゃならないかなあ。  
暗黙のプレッシャーが出て来て、その頃から何か  
詩みたいなものを書くようになりました。



中3の時、日本脳炎で40日間入院したんですね。  
入院している間に、父の影響や剣道をやっていたので、  
宮本武蔵を読みました。

それから、北杜夫さんの「幽霊」を読んだんです。  
幽霊というのは、少年の終わりの物語なんですね。

少年からそうじゃなくなる時期の感覚が、  
実に繊細に描かれていて、私がそういう時期だったので、  
自分の終わりつつある少年期というものから、  
移行しつつある感覚がものすごく心に沁み込んだんです。

こんな風に表現できるんだなあ。  
なんか驚きを感じて、結構影響を受けていると思いますね。

考えてみると、北杜夫さんて、  
「どくとるマンボウシリーズ」などの楽しい作品と  
非常にまじめで繊細な路線と、両方書くじゃないですか。

私も考えてみると、エッセイは明るく書いて、  
小説になるとちょっと違うんですけど、  
その両面性というのも案外似ているなあと感じますね。

以前、北杜夫さんの娘の齋藤由香さんが、  
一泊修行するという企画でここ（福聚寺）に来られて、  
翌日、由香さんが帰られる前に、北杜夫さんの話をしたんですね。

そして、そのまま、北杜夫さんが入院している病院に行ったようで、  
病院から電話をいただいたんです。

「今日は大変お世話になりました。  
ちょっとお待ちください、父に代ります。」と言って、  
入院中の北杜夫さんが、「娘が大変お世話になりました」と。

思いもよらないことで、いや参りましたけれど。  
直接、北杜夫さんとお話出来て、本当に嬉しかったですね。

我が家では、クリスマスプレゼントは本だったんです。  
宮本武蔵は父に薦められて読んでいましたが、  
そういえば、中3の入院中に北杜夫さんはどうして読んだんだろうかな？  
う〜ん。今まで思ってもみませんでしたね。どうしてなんて。

その後、高校になって、明治大学の哲学の先生が  
調べもので来られたのですが、私の話をよく聞いてくれました。  
悩める高校生だった私は、先生の家に出入りするようになって、  
毎週ボランティアで勉強会をやってくださって。

先生が主催する座禅会というのを、山梨県甲州市（旧塩山市）にある禅寺である臨済宗向嶽寺派の大本山でやられていて、そこに行きました。また、その頃はあらゆる宗教に触れて見たかった。自分のお寺は、禅宗ですけど、宗教をみんな見渡して、円形になってみないと、どういうことをやっているかわからない。俯瞰したかったんだと思います。

高校の時はモルモン教、統一教会、天理教。  
大学生になってモロミの塔、代々木にあるイスラムのモスクにも行きましたね。

あらゆる宗教を俯瞰してみたとしても、正しいと思うからこれをやりますというのではないですね。宗教とは、生ものというかおもしろいですよね。

宗教というのは本当に人との出会い。  
同じ人と出会うのも、こちらがこういうタイミングじゃなかったならば、こういうことにはならなかった。

---

Q6.東日本大震災後の事を教えてください。

---

私が「たまきはる福島基金」の理事長をお受けしたのは、理事の渡邊さんたちの熱い思いを受け、自分一人では難しいことも、一緒にできそうだな気がしたからです。

私たちは誰でも風評被害の中で生きていようなものだと思うんです。自分のことを正当に評価されているなあという中で、生きているのは稀有（けう）なことで、誤解されているような思いを持つと思うのです。

これまで、小説書いたり、エッセイ書いたりしている分には、積極的な非難を浴びることはなかったんですね。宗教の分野、文学の分野、ささやいているようなものですから。訴えているというものではないですから。嫌なら聞かなければいいわけだし、たいした問題でなかったんですが…。

でも今回の震災において、この放射能、放射線という問題をめぐって、自分なりに考えを述べていくと、ものすごく積極的な非難を浴びる状況になりましたね。

震災直後なんて、「檀家さんをなぜ連れて逃げないんですか？」と、夜中の2時、3時に関係なく電話をかけて来るとんでもない人もいました。まったくこちらの状況をわからないのに。

私は、全国のお寺に線量の計測をお願いして、こんなに高いところもあるとを把握していますから。

三春よりも京都駅の近くの方が高いって、よっぽどわかりますから。  
神戸はもっと高いですけども。  
会津より低い所を九州で探そうとしたら大変ですよ。

でも福島をひとくりに扱うんで、冷静さを欠けているというか。  
もうちょっと冷静に見てほしい。

それから、県内から県外へ、あちこちに自主避難している人たちの中に、  
私を避難する人びとは、福島県人なんです。それがとてもしんどいですね。

福島に戻れない、福島が危険でないと県外に避難している人たちの  
アイデンティティーは保てないんですね。  
だから、福島県は危険なんだという、訴えになるんです。

一番遠い沖縄には最初1500人が行きましたよ。  
私の知り合いで大阪の幼稚園に紹介したお母さんが、  
「福島の野菜は食べないでください」と、  
ビラを作って園に配っていたりしているのですが、  
本当に情けなくなりますね。この問題は本当に簡単ではないですね。

放射線の問題と原発の問題とは、  
まったく別に考えないと大変ややっこしいです。

「原発は反対です。なので微量な線量も許せません。」  
と言う人がいらっしゃるわけですね。  
そう言う人たちからすれば、  
非常に困ったことを言っているように思われるんですね。

インターネットでは、検索ワードに  
「玄侑批判」という項目がありますから、  
こういうのは結構しんどいんですね。

でもしょうがないですね。  
こうして強くなっていくんですね。

---

Q7.理事の渡邊さんはいかがでしょう？

---

人の考え方はどうあってもいいと思うの。  
色んな避難がある。甘んじて受ける。  
それに対してあれだと言わないし、それでいいのかなと思うし。

私ら、皆様のご支援をいただいたものを、福島の方々にという話で、  
支援金とか何とかという形で、色々と活動しているわけだけれども、  
人は人、相手に対して求め過ぎないということはあると思うよね。

支援してくださる方の中には、私の周りにはいくら伝えても支援しようという気持ちがまったくない。それがおもしろくないとおっしゃる方もいるけれど、それも一つの考え方、方法なんだろうが、求め過ぎるものでもないと思うしね。

最初の内はね、多くの支援を集めようと思っていましたが、結局は会社のCSR活動の話でも、なかなか出しづらいこともあって。

今やっているのは、玄侑理事長が色んなものを書いてもらって、「たまきはる福島基金」を知ってもらって、支援しようねって方々の支援金でやっているという形なんですね。

難しいけどね。期待するとね。外れた時に、自分の心の部分がね、辛くなるからね。あえて期待しないという部分もあるかも知れない。期待したからどうなるんだということ、どうにもならない部分がある。自分にできることだけ、一生懸命やる。

---

Q8.子供たちや若者たちを支援しようとしたきっかけは？

---

やはり未来を持って、復興だ復旧だと言っても、未来を背負ってくれるのは子どもたちだし、若者だし。そういう子どもたち、若者たちをバックアップすることによって、将来の福島が良くなるよね。そういう思いがありますのよ。

---

Q9.2011年の震災から今までに玄侑氏が感じたことは？

---

目に見えない放射能問題の厄介さ。小さな自治の必要性を思っています。

---

Q10.理事長としてこれからどのようにしていきたいと思いますか？

---

今後も支援を続けていきたい。また、困難を乗り越えるための大きな夢が提示できたら嬉しいと思っています。

---

Q11.玄侑氏にとってのスターリィマンは誰ですか？

---

穴を掘って、穴の所から見ると、昼間でも星が見える。その穴を掘り続ける作業を止めないということです。

「穴を掘る作業」とは、私にとって  
やっぱり小説を書くこと。一番苦しいんです。

エッセイは消費。その場で出来るものはありますけれど、  
すでに出きている、形を整えて出しているの過ぎない。  
講演も生のもではありますけれど、あるのもなのです。

自分の中で、生産する活動にあたるのが、  
やっぱり小説を書く事とお経をあげること以外は、  
消費なんですね。

お経をあげる時間は、不思議な時間で、  
何も思考はしていないですけど  
何かね、深い無意識が開くというか。

小説もあるところを過ぎると、無意識世界が開いてくるって感じ。  
私は媒体になっているだけみたい。そういう感じがしてくる。

仏教用語に「阿頼耶識（あらやしき）」という言葉があります。  
「含蔵識(ごんぞうしき)」と訳しますが、  
自分が生まれてからのことと、それ以前のこと、  
何でも入っているという意味です。

「あらや」はサンスクリット語で「膨大な」という意味。  
「ひまあらや」が「ヒマラヤ」なんですね。  
「ひま」は「白い」なので、「膨大な白いかたまり」が、  
「ヒマラヤ」なんですね。

世界中で色々な臨死体験があって、  
インドだと白い像が出てきたり、スイスだとお花畑が多かったり、  
日本ならではの川が出てきたりとかありますが。

そういう地域差、文化差を超えた所の最後に  
暗いトンネルを通ると、光の世界が広がってあるんですね。  
これは、産道の体験だなあという人がいるんですよ。

もしかすると、母親の産道を通ってくる体験って臨死体験で、  
自分がこの世に誕生した一番最初の記憶が、  
最期の記憶の時に、種明かしされるように、よみがってくる。  
そうかも知れないなど。

生まれてから何年間かは、記憶がない。  
これを人は取り戻したいのだと思います。

失われた記憶というのを、全部持っている「あらやしき」のものと、  
普段いかに付き合うか。だから、座禅も、瞑想も、  
私にとっては、小説を書くことも「あらやしき」世界に触れること。

あらやしきの世界に触れる穴掘りは、一人では無理ですね。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第15話の第3章は、1月9日(金)配信予定です！

---

玄侑宗久氏の家族の原風景は、  
いかがでしたでしょうか？

私は、玄侑氏が隣近所との垣根があまりなかった時代に生まれ、  
檀家さんとファミリーのようにつながっている中でお育ちになったからこそ、  
震災後、批判を受けながらも  
福島の未来を担う子ども達や若者たちのために  
尽力を注いでいらっしゃるのだと思いました。

もうすぐ迎える1月を「睦月」と呼ぶ由来は、  
親族一同集って宴をする「睦び月(むつびつき)」からきているそうです。

年末年始。久方ぶりに会う親族、  
また、離れて過ごす大切な人とのつながりを  
改めて想っていただけたら幸いです。

さて、今回は第3章として、  
「玄侑宗久氏のスターリィマンに宛てた感謝の風船レター」  
をお送り致します。

配信は、来年1月9日(金)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

今年も「今を生きるスターリィマンの物語」の  
メールマガジンをお読みいただきまして、  
本当にありがとうございました。

玄侑氏がインタビューの中でお話くださった「生産」と「消費」のお話から、  
私は、この世に生まれてきた意味「あらやしき」を覚醒していくことが、  
創作者としての使命でもあることを教えていただきました。

ご住職として、作家として、常に死と生を見つめながら  
「あらやしき」を掘り進めておられる玄侑氏から  
多くの学びをいただき、玄侑先生に出会えて、本当によかったです！！  
と心から感謝しています。

皆様にとって、今年はどんな素晴らしい出会いがありましたか？

来年も皆様がよきご縁に恵まれますよう、心から願っています。

さて、玄侑氏が震災2年後に出版された「光の山」は、  
震災に見舞われた人々のリアルな姿と心情を  
深く静かに物語る6つの短編となっています。

表題となった「光の山」は、震災より30年後の福島を舞台に  
放射能汚染された土や葉や仮置き場が  
瑠璃色の光の山になるまでを描いています。

私たちの未来は、どんな光が輝いてるのでしょうか。

それぞれの愛に満ちた温かな光が輝く未来を願い、  
来年もスターリィマンの創作、きずなをつなぐ活動を  
皆様と共に広げていきたいと誓います。

それでは、皆様、よい新年をお迎えくださいませ。  
たくさんの感謝をこめて☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2015.1.9 vol.46

★\*.....\*★

---

☆第15話「今を生きるスターリイマンの物語」

～福島原発避難の子どもたち、若者たちを支え続ける～

たまきはる福島基金 理事長 玄侑宗久氏

第3章 ～玄侑宗久氏のスターリイマンに宛てた感謝の風船レター～

---

拝啓、星(ほし)清(きよし)先生。

玄侑宗久

先生とお目にかかってから、  
すでに四十年以上が経過いたしました。

今頃先生は、如何お過ごしなのでしょうか。

あれは確か、私がまだ高校生の頃だったかと思います。  
先生は幻住派の禅のことを調べておられ、  
うちのお寺の開山様である  
復庵宗己（ふくあん そうこ）禅師のことを調べるため、  
大学の夏休みを利用し、奥様を伴って来られたのでした。

たぶん事前にお手紙を頂き、  
私の両親は承知していたのですが、  
私にすれば突然のお客さんが  
何日か泊まられるというので、驚きの体験でした。

今よりずっと緩やかな時が  
お寺にも流れており、  
確か夕食は、茶の間というか客間に  
設えた卓子で皆で食べたように記憶しています。

父と酒を酌み交わしながらも、  
真っ直ぐに私たちを見つめ、  
じっくり話を聴いてくださる先生や  
奥様の在り方がじつに新鮮でした。

その後も夏休みごとにお出でになり、  
家族同士のおつきあいをさせていただきましたが、  
私が進学のため上京すると、東伏見のお宅は  
私にとってオアシスのような場所になっていきました。



近所の公民館での『狂雲集』の講義、  
年末の餅つきなど、忘れられない思い出は多いですが、  
なんと言っても先生が入院されたあと、  
「痛みは私自身だ」とおっしゃって  
鎮痛剤を拒否されていた様子が忘れられません。

しかもベッドサイドに置かれていた本は、  
晩年に読み直されたソクラテスでも  
峻厳な幻住派の禅匠たちでもなく、  
平易な言葉で民衆を導いた  
盤溪禅師の語録であったことも印象的でした。

「韜光(とうこう)」という院号を  
向嶽寺の宮本老師にいただき、  
先生は颯爽と去って行かれましたが、  
今も先生はその名の如く、  
私の頭上に「光を包み隠し(韜)」ながら輝いています。

福島県の復興にとっても、いま「韜光」という態度は  
重要である気がするのですが、  
もうしばらくこちらで考え、実践してから、  
いずれ報告に参ります。

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
☆第16話の第1章は、1月19日(月)配信予定です！

---

玄侑宗久氏のスターリイマンに宛てた  
感謝の風船レターはいかがだったでしょうか？

お忙しい新年の1月4日に、  
玄侑氏から原稿をお送りいただきました。

すぐに拝見させていただいた私は、  
まず、『星(ほし)清(きよし)先生』  
このお名前に、心が震えてしまいました。  
そして、涙が止らなくなって…

なぜなら、玄侑氏のスターリイマンは  
私が描いた物語のスターリイマンの姿  
そのものだったから…。

目には見えないけれども  
玄侑氏の心に確かに届いている  
星先生からのメッセージ。

夜空の星になった、星先生の清く美しい魂は  
今も変わらず輝き続けておられます。

そして、玄侑氏は必ずや  
福島の未来を担う子どもたち、若者たちを  
支えてくれるだろうと！！そう信じ、  
エールを送り続けてくださっている事でしょう。

私たち一人一人の命は、  
夜空のスターリィマンたちに導かれ、見守られ、  
数え切れない奇跡のような出会いをいただきながら、  
今を生き、未来をつないでいます。

皆様、どうかこれからも福島の事を忘れずに  
想い続けていただきたいと心から願います。  
「たまきはる福島基金」 <http://www.osyf.or.jp/index.html>

このメールマガジンをお読みくださっている皆様と  
今を生きるみんなの未来が笑顔で幸せになりますよう  
心から祈りたいと思います。

さて、次回の配信は、1月19日(月)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

今週末は、KOBE三宮ひと街創り協議会さまが取り組んでいる  
「KOBE夢・未来号」というプロジェクトに参加させていただきます。

このプロジェクトでは、神戸市内の児童養護施設にいる  
小学6年生の子ども達に1泊2日の沖縄観光を毎年プレゼントされています。  
<http://kobe-shmk.com/yumemirai>

以前、メルマガでご紹介させていただいた  
沖縄の淵辺美樹氏からご縁をいただき、  
旅程の2日目のお昼に、スターリィマンの紙芝居を  
子ども達に観ていただける事になりました。

阪神淡路大震災で被災した藤原奈央子さんとの出会いをきっかけに、  
沖縄で生まれたスターリィマンの紙芝居を  
神戸の子ども達に観ていただけるなんて…

本当に嬉しく、感慨深い気持ちでいっぱいです。

今年の1月17日で、阪神淡路大震災から20年。  
その節目の年につながった、素晴らしいご縁に感謝を込めて、  
神戸の未来を担う子ども達に風船をお届け出来たらと願います。

そして、最後に皆様にお知らせがあります。

私たちは、ずっと心の中に思っていた夢に向かって、  
今年から新たな一步を踏み出す事にしました。

その夢とは、「スターリィマン美術館」の設立です。

世界中が家族のような温かいきずなでつながり、  
みんなが夢を思い描き、一緒に叶えていけるような  
そんなかけがえのない拠点を創りたいと願っています。

まず始めの一步として、1月21日(水)から26日(月)まで  
表参道で企画展を開催致します。

<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

是非、皆様のお越しを心からお待ちしております☆

それでは、念頭のメールマガジンをお読みいただきまして、  
本当にありがとうございました！

厳しい冷え込みが続きますので、  
皆様、体調に気をつけてお過ごしくださいませ。

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---